



2026年7月
ニチイキッズ
なんこく保育園

暑い日が増えてきて、夏の始まりを感じさせる季節になってきましたね。暑い中でも夢中になって遊ぶ子どもたちは汗をかいただけでもとても体力を消耗しています。また、あせもや虫刺されなどの肌トラブルも見られ始めています。皮膚の清潔や水分補給などに気をつけながら気持ちよく過ごせるようにしていきたいですね。

夏に多い感染症

ウイルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので、必ず受診をして医師の診断を受けましょう。

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水ぼう、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1～4日くらいで解熱します。



プール熱

プールで感染することもあり、高熱が3～5日くらい続き、喉の痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化のよい物を食べましょう。



手足口病

手の平、足の裏、口の中に水ぼうがで、発熱することもあります。食事は喉越しのよい物を食べましょう。



流行性角結膜炎

目が腫れ、充血し、普段より多く目やにや涙が出ます。周りの人への感染源となるので、タオルは共有しないようにしましょう。



みずあそびできるかな？



お天気は良い日には、みずあそび楽しみたいですね！みずあそび前には、必ずお子さんのその日の健康状態のチェックをお願いします。体調によっては、参加できない場合があります。以下の症状のほかに、気になる症状がある場合はご相談ください。

こんな時は控えましょう

- ・2日前まで発熱があった。(微熱も含む)
- ・鼻水や咳が出ている。下痢をしている。
- ・爪が伸びている。
- ・目やにが多く、目が赤く充血している。
- ・湿疹など皮膚に異常がある。
- ・耳だれが出ている、耳の痛みを訴える。



夏風邪の時期です！

夏に気をつけたい夏風邪は、冬とは異なり高温多湿を好むタイプのウイルスです。

夏風邪は、よく『寝冷え』と混同されますが、『寝冷え』は睡眠中の体温調節の乱れから鼻水や下痢を起こすことで、ウイルス感染によるものではありません。

夏風邪は、咳や鼻水が少なく、肺炎に移行することはあまりありませんが高熱が出たり喉が赤く腫れ上がったり、体に発疹が出たり目が充血するというのが特徴です。

基本的には“風邪=ウイルス感染症”なので治療薬はありませんが、熱や咳の対症療法として、薬は出してもらえます。症状が治まっても、一日はゆっくり休息をとってから登園しましょう。